平成24年４月２日

各　　位

会社名　インスペック株式会社
代表者名　代表取締役社長 兼代表執行役員　菅原　雅史
（コード番号：6656　東証マザーズ）
問合せ先　取締役兼執行役員 管理部長　冨岡　喜榮子
ＴＥＬ　0187-54-1888（代表）

当社株式の時価総額が３億円以上になったことについて

当社株式は、平成24年３月において時価総額が３億円以上（月間平均時価総額及び月末時価総額）となり、東京証券取引所有価証券上場規程第603 条第１項第５号ａに該当しないこととなりましたので、お知らせいたします。

記

１．当社株式の時価総額について

当社株式は、平成23年12月の月末時価総額が３億円未満となりましたが、平成24年３月の月間平均時価総額及び月末時価総額が３億円以上となり、東京証券取引所における時価総額に関する上場廃止基準に該当しないこととなりました。

（注）平成23年12月13日付けで株式会社東京証券取引所より、時価総額基準の金額を平成24年12月末日までの間、「５億円未満」から「３億円未満」への変更を延長する旨、発表されております。

＜ご参考＞

① 平成24年３月の「月間平均時価総額」　333,528,485 円

② 平成24年３月の「月末時価総額」　320,956,300 円

（３月30日終値：30,100 円 × ３月30日上場株式数：10,663 株）

２．今後の見通しについて

昨今の日本経済は、欧州の財政危機による金融不安や新興国の景気減速、長期化する円高等、企業を取り巻く環境は厳しい状況が続いておりますが、東日本大震災の復興事業も徐々に始まり、一部に明るい兆しが見えてきております。

しかしながら、当社が属する国内のエレクトロニクス業界におきましては、長引く円高や製品のコモディティー化による価格の下落等の影響により極めて厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社は、基板ＡＯＩ事業における初期のターゲットとしてきたハイエンド市場だけでなくミドルレンジのプリント基板検査の市場開拓を積極的に推し進めるべく、国内外ともに基板ＡＯＩの受注活動に注力してまいりました。

しかしながら、ＡＯＩの潜在ユーザーである多くのエレクトロニクス製品の量産工場は、労働コストの低いアジア諸国にシフトしており、国内のＡＯＩ市場は、新製品やカスタム品などの特別仕様に対するニーズが大半を占めており、市場全体としての成長は著しく鈍化しております。

これに対し、海外市場ではスマートフォンやタブレットＰＣなど、ヒット商品の生産能力増強のため設備投資を積極的に行っており、検査装置市場も成長を続けております。さらに、ハイエンドの分野においても一部の台湾企業や韓国企業が技術的にキャッチアップしてきており、海外での生産の開始とともにハイエンドＡＯＩのニーズも拡大してくるものと予想されます。

当社では、このような海外における検査装置の成長市場で事業展開を進めるため、平成 23 年６月に台湾の有力代理店と販売契約を結び、本格的に販売活動を推進しております。

また、このような状況の中、平成 24 年３月６日に、台湾の大手基板メーカーと外観検査装置の供給に関する長期パートナーシップに関する事項及び最終外観検査装置（ＡＶＩ）の供給に関する事項に合意し、ハイエンドパッケージ基板の最終外観検査用として、ＡＶＩを段階的に受注・納入するアグリーメントを締結いたしました。これは受注生産を特徴としてきた当社の生産体制を大きく変えるもので、業績の季節変動リスクを回避し、年度を通じて安定的な収益を計上することにつながります。

最終外観検査は、国内外を問わず現状でも目視に頼っている場合が多く、人件費の高騰や作業負荷の増大等の理由から自動化のニーズが高まっております。当社では、このＡＶＩのニーズに対応していくことで受注拡大を図り、ＡＯＩの拡販活動と併せて事業基盤の強化を推進してまいります。

今後においても、一層の経営基盤及び業績改善に努め、引き続き企業価値の向上に邁進してまいる所存です。

株主、投資家の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上